

生育量で打つ手が違う!!

指導部 松浦 一字

令和元年のイネ作りも、分げつ期に入り、順調に生育しているものから、今ひとつ芳しくないものと千差万別かと思われる。天候が毎年違うように、イネの生育は、品種や基肥量が同じであっても、生長の仕方は毎年のように違ってくるので、イネ作りの難しい所以でもある。

まず、目標の有効茎数を確保するにあたって、重要なことは、時期々の生育量(草丈・茎数・葉色)をしっかり把握して、適確な対応を施すことである。

基肥量の過不足の診断と対応

要となる。
留意したいことは、生育の順調なイネであることが前提である。

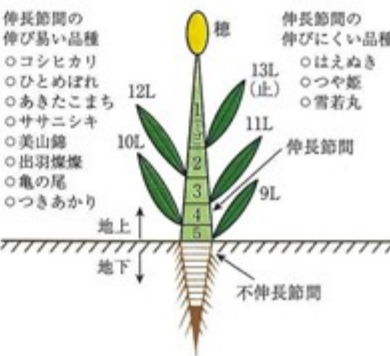
生育が順調なイネでは、6~7葉期に最高葉色となる(品種)との基準表参照願う。基準より0.25番色も淡いようでは、あきらかに基肥不足と診断「はえぬき」であれば0.7~1kg内外の追肥、「ひとめぼれ」では0.5~0.8kg内外の追肥といった対応が必要。

軟弱徒長苗で活着不良や田ワキ等で初期生育が不良のイネでは、葉色の上がりも遅く、最高葉色も8~9葉期と1葉期遅れるため、あわてて基肥不足との誤診にならないようにしたい。

(松浦)

6葉期頃に無計画なNの追肥は禁物であるが、あまりにも生育が悪過ぎて見ていられないといった相談も毎年のようにある。少し経費はかさむが、確安か燐燐安加里等でN1kg内外の追肥で回復を早める手段もある。

硝酸態チッソはパッと効いてパッと無くなる性質で無駄も多いが何れも手打たないよりは回復を早め、経費以上の効果があったという事例が多い。



イネの節間・穂・茎葉と地下部(根)の模式図 (松浦)

この時期に一番大切なのは正しい観察と素早い対応技術である。

表2. 主稈総葉数13葉の稚苗(はえぬき)の葉齢指数及び葉齢と出穂前日数の想定 (松浦作成)

松島省三氏創案の葉齢指数と幼穂発育段階	稚苗はえぬきで想定	出穂前日数
I 止葉分化期	72	9.4
II 穂首分化期	77	10.0
III 穂の節の増殖期	80	10.4
IV 第一次枝梗分化初期	81	10.5
V 第一次枝梗分化中期	82	10.7
VI 第一次枝梗分化後期	84	10.9
VII 第二次枝梗分化初期	85	11.0
VIII 第二次枝梗分化中期	86	11.2
IX えい化初期	87	11.3
X えい化中期	88	11.45
XI えい化後期	90	11.7
XII 減数分裂期	92	11.9
XIII 減数分裂期	95	12.35
XIV 減数分裂期	97	12.6
XV 減数分裂期	98	12.74
XVI 花粉形成開始期	100	13.0

※葉齢指数と幼穂発育段階との関係: 表の左側(松島省三氏創案)にははえぬき(稚苗)の生育、葉齢と出穂前日数を想定作成したものである。

主稈総葉数、16葉~13葉と品種による違いや稚苗、中苗、成苗といった移植する苗によって主稈総葉数は違ってくるものである。総葉数で現在の葉齢を割った数値(葉齢指数)。主稈総葉数の異なる品種でも葉齢指数で幼穂の発育段階を知ることが出来る。

日本のイネの主稈総葉数は、16葉のものが最も多く全体の25.6%を占めているので、16葉を基準にしてあり、補正する計算式もあるがここでは割愛する。

表1に生育量や葉色等で判断し易いように時期別にそれぞれの目的に合った施肥量の目安を記したので参照願う。

節間の伸び易い品種ほど慎重な対応を

模式図に示すように、イネは、伸長節間(地上部)と不伸長節間(地下部)で構成されている。さらに、伸長節間の伸び易い品種と伸びにくい品種に大別される。特に、ササニシキやコシヒカリ

等のように節間の伸び易い品種ほど基肥及びツナギ肥・穂肥等の時期や分量を間違えると倒伏等の大変な事態になりかねないので対応にあたっては、より慎重でありたいものである。尚、表2は葉齢指数と幼穂の発育段階を示したものである。特に障害を受け易い減数分裂期等の葉齢や時期にも目を向けた管理でありたいものである。

表1. 品種別、基肥不足の追肥、ツナギ肥、穂肥の目安

品種と対応法	基肥不足判断(追肥)	ツナギ肥	穂 肥	
品 種	6～7葉期	10葉期	11葉期	12葉期
はえぬき	葉色が淡すぎて明らかに基肥不足の場合はNで0.7～1.0kg内外の追肥。	葉色3.75番内外 茎数 620本/m ² 以内 } NKで 草丈 50cm以内 } 1kg 葉身 直立型 茎数×葉色(SPAD)=23,250以内	3.75番で理想 } 600本/m ² で理想 } NKで 57cmで理想 } 2kg 直立型で理想 } (本番穂肥)	4.25番で理想 } 570本/m ² で理想 } NKで 64cmで理想 } ムラ直 直立型で理想 } 穂肥を。
ササニシキ	生育不良が著しく我慢出来ない場合は、確安か燐燐安加里でN0.7～1.0kg内外の追肥。	葉色 3.5番以下で淡い } NKで 茎数 650本/m ² で少ない } 0.6kg 草丈 49.5cm内外で短い } 内外 葉身 直立型 茎数×葉色(SPAD)=22,750以内	3.25番以下で淡い } NKで 610本/m ² 以下で少ない } 0.6kg 56cmで短い } 内外 直立型で理想	3.25番で理想 } NKで 600本/m ² で理想 } 1.5kg 62cmで理想 } 内外 直立型で理想 } (本番穂肥)
ひとめぼれ	生育不良が著しく我慢出来ない場合は、確安か燐燐安加里でN0.7～1.0kg内外の追肥。	葉色 3.5番と淡い } NKで 茎数 570本/m ² 以内 } 0.8kg 草丈 50cm内外で短い } 内外 葉身 直立型 茎数×葉色(SPAD)=19,950以内	11.5葉で本番穂肥 } 3.5番で理想 } NKで 560本/m ² で理想 } 1.5kg 58cm以内で理想 } 内外 直立型で理想	12.5葉で2回目穂肥 } 4.0番内外で理想 } NKで 520本/m ² 内外で理想 } 1.3kg 60cm内外で理想 } 内外 直立型で理想
コシヒカリ	稈長の伸び易い品種なのでNは控え目に基本。	葉色 3.25番以下で淡い } NKで 茎数 680本/m ² 以内で少ない } 0.4kg 草丈 55cm以内で短い } 内外 葉身 直立型で理想 茎数×葉色(SPAD)=15,600以内	3.0番以下で淡い } NKで 460本/m ² 以内で少ない } 0.5kg 65cm内外で短い } 内外 直立型で理想	3.0番で理想 } NKで 440本/m ² で理想 } 1.5kg内外 74cmで理想 } (幼穂期0.8～1.0cmで本番穂肥) 直立型で理想
つや姫	特栽培のため、化学合成Nは基準値を超えてはならない。	葉色 3.75番以下で淡い } 有機 茎数 500本/m ² 以内で少ない } 50%で 草丈 54cm以内で短い } 0.4kg 葉身 直立型 } 内外 茎数×葉色(SPAD)=19,000以内	11葉で本番穂肥 } 3.5番色 } 有機 530本/m ² で理想 } 50%で 68cm以内で理想 } 1.5～ 直立型で理想 } 2kg	穂肥ムラがひど過ぎる場合を除き、基本的には施肥しない。 良質な堆肥等での土作りが大切である。